

令和4年9月13日
 総務省
 一般社団法人全国過疎地域連盟

 令和4年度過疎地域持続的発展優良事例表彰における
 総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞の決定

総務省及び全国過疎地域連盟は、令和4年度の過疎地域持続的発展優良事例表彰における総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞を以下のとおり決定しました。

表彰式については、10月20日（木）熊本県にて開催予定の「全国過疎問題シンポジウム2022 inくまもと」において執り行う予定です。

1 過疎地域持続的発展優良事例表彰について

本表彰は、過疎地域の持続的発展と風格の醸成を目指した過疎地域の取組を奨励するものです。

過疎地域持続的発展優良事例表彰委員会（委員長 宮口洞庭早稲田大学名誉教授）において、優れた成果を上げた過疎対策の先進的・モデル的事例としてふさわしい、地域の特性を活かした創意工夫ある優良事例を選定しました。

2 受賞事例

◎総務大臣賞（4事例）

団体名	キャッチフレーズ	概要
ねばむら 根羽村 (長野県根羽村)	ねばー ギブアップ	令和元年に地域おこし企業人制度（当時）の活用をきっかけに、派遣された社員が村へ移住し、村の中間支援組織の立ち上げ運営に関わったことにより、一過性ではない外部人材との協働の大きな流れができた。また、村への移住者等の生活拠点となる「トライアルハウス」を設けるなど、関係人口の増加・移住施策の推進とつながる官民協働の地域づくりを進めている。
ひだし 飛騨市 (岐阜県飛騨市)	人口減少先進地の挑戦！地域を超えて支えあう「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ！」	市民の困りごとや地域課題を交流の地域資源と捉え、困りごとなどを解決するプログラムを住民が作成し、プログラム主催者を「ヌシ」、参加者を「ヒダスケさん」と呼び、地域の内外から広く「ヒダスケさん」を募るなど、人と人とのつながりと支え合いを構築する新しい活動を展開している。
特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾 (徳島県勝浦町)	古代から未来へ、夢・想い・歴史文化をつなぐプロジェクト～恐竜化石とビッグひな祭りを活用した町づくり～	人形文化の伝承と町おこしを目的とした約3万体のひな人形を飾る「ビッグひな祭り」や、平成6年に発掘された「恐竜の化石」などの地域資源を用いた様々なイベント活動を通じて、30年以上にわたって町の地域資源を活かした地域の魅力の創出に貢献するとともに、取組が次世代へつながるように自主的・主体的な活動を行っている。

<p>くにさき地域応援協議会 寄ろう会 (大分県国東市)</p>	<p>地域づくり支え合い活動共通WEBサイト“国東つながる暮らし”(海・山・川・歴史・そして繋がる人々の暮らし)</p>	<p>地域住民が主体となり、情報発信を楽しみながら学べる環境づくりを創出するとともに、『誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化』の実現に向け、SNSを活用した地域づくり支え合い活動共通WEBサイト“国東つながる暮らし”を制作・公開するなど、活動の可視化による情報共有、移住・定住に繋がる取組を行っている。</p>
--	--	--

◎全国過疎地域連盟会長賞（4事例）

団体名	キャッチフレーズ	概要
<p>びくに 美国・美しい海づくり 協議会 よべつ 余別・海HUGくみた い (北海道 積丹町)</p>	<p>資源が循環するまちづ くり</p>	<p>「積丹ウニ」の安定的な生産・供給を目指し、廃棄されるウニ殻を使用した肥料によるコンブの養殖や、養殖したコンブをウニの餌料にする取組のほか、漁業生産等の経済効果や生態系保全機能が期待できる藻場の保全活動を行うなど、廃棄物であったものを新たな資源とする価値を創出した循環型社会の実現に向けた活動を地域一帯となって取り組んでいる。</p>
<p>ごじょうがおか 五条ヶ丘活性化推進協 議会 (山梨県身延町)</p>	<p>地域住民とともににつく る「身延愛」の推進</p>	<p>廃校舎を活用した校庭キャンプの実施や、地域の情報を載せた手作り地図の配布など、地元の資源や施設を活用した取組を行っている。 また、様々な「おもてなし」活動を通じて地域リーダーの育成や発掘を行い、持続可能なまちづくりに寄与し、地域活性化につながる先進的な取組を行っている。</p>
<p>100プロ (広島県北広島町)</p>	<p>地域の児童数を100人 に！</p>	<p>地元小学校の保護者であった3人から活動を始め、現在は幅広いメンバー約60人が参加し、移住者を孤独にさせないための女子会プロジェクトなど、やってみたい人が「この指止まれ」方式でチームを組みながら自由に活動を行い、情報発信するなど、子育て世帯をはじめ若者の移住・定住者を増やす活動を行っている。</p>
<p>特定非営利活動法人 あつたかいよう (徳島県海陽町)</p>	<p>とくしま南を、海が見え る「あつたかい」まちに</p>	<p>①にぎわいづくり、②人材育成、③移住者支援を活動のメインの柱とし、①では各種イベントの開催の他に自然インストラクターの育成等に関わり、②ではひとり親世帯向けに料理教室の開催や、外国人技能実習生等を対象とした日本語教室の開催、③ではお試し住宅の運営など、地域を元気にするための取組を行っている。</p>

※一般社団法人全国過疎地域連盟は、過疎関係都道府県及び過疎地市町村等を会員とする団体で、会員相互の緊密な連絡提携により、過疎対策事業の充実強化を図り、過疎地域の持続的発展を促進し、過疎地域における産業・経済の開発振興と、地域住民の生活と文化の向上を図ることを目的とする団体です。

連絡先

総務省地域力創造グループ過疎対策室
担 当：平本、刈田
直 通 電 話：03-5253-5536

一般社団法人全国過疎地域連盟
担 当：菊地、吉川
直 通 電 話：03-5244-5827

令和4年度

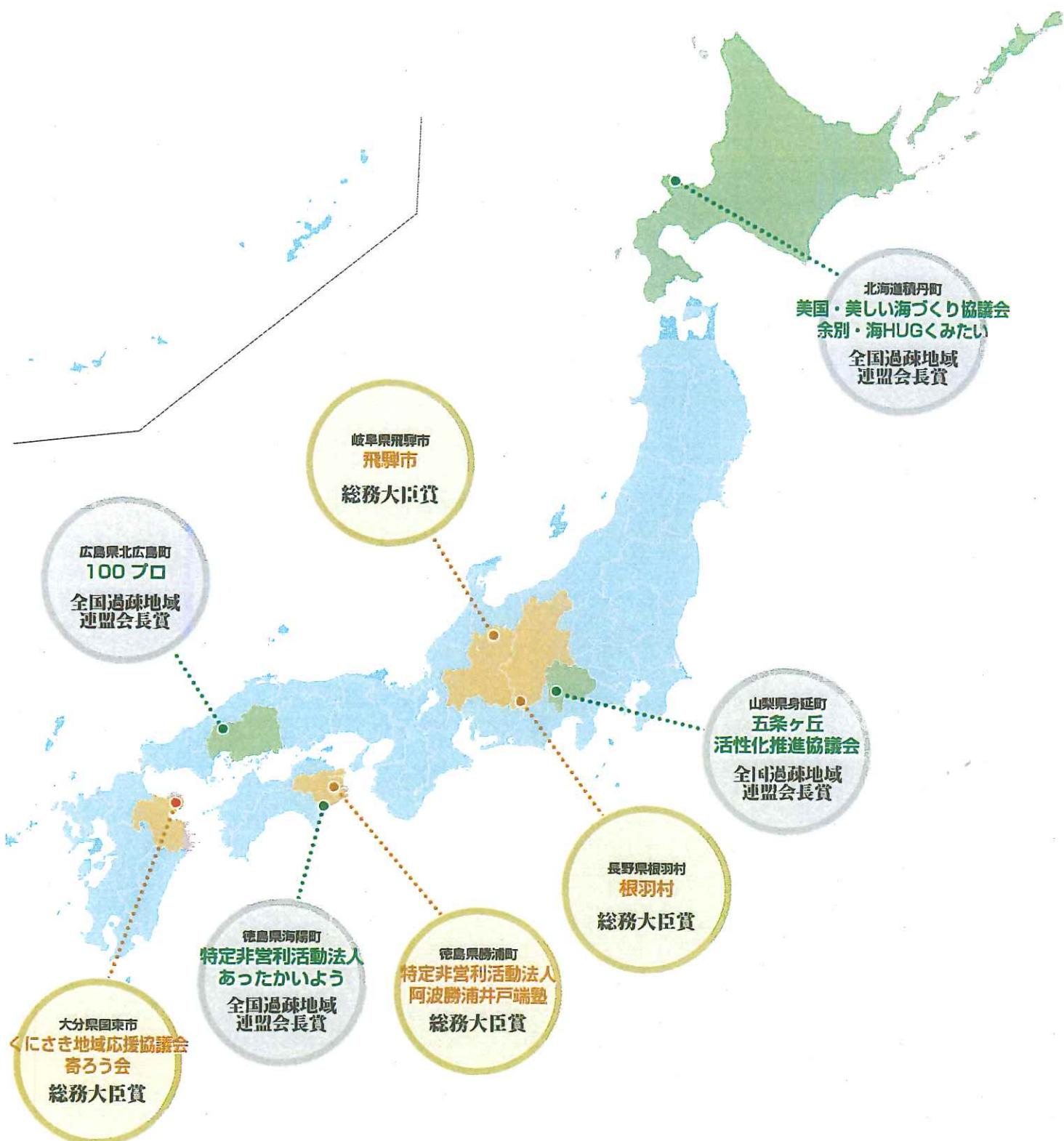
過疎地域持続的発展

優良事例表彰



総務省・一般社団法人全国過疎地域連盟

令和4年度 過疎地域持続的発展優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧

総務大臣賞

ねばむら
根羽村

ねばー ギブアップ

ひだし
飛驒市

人口減少先進地の挑戦！地域を超えて支えあう「お互いさま」
が広がるプロジェクト「ヒタスケ！」

あわかつうらい とばたじゆく
特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾

古代から未来へ、夢・想い・歴史文化をつなぐプロジェクト
～恐竜化石とビッグひな祭りを活用した町づくり～

くにさき地域応援協議会 寄ろう会

地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト “国東つながる暮らし”（海・山・川・歴史・そして繋がる人々の暮らし）

びくに
美國・美しい海づくり協議会

よべつ
余別・海 HUG くみたい

資源が循環するまちづくり

ごじょうがおか
五条ヶ丘活性化推進協議会

地域住民とともにつくる「身延愛」の推進

100 プロ

地域の児童数を 100 人に！

特定非営利活動法人あったかいよう

とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに

全国過疎地域連盟会長賞

過疎地域持続的発展 優良事例表彰制度の概要

今日、過疎地域では、人口減少、少子高齢化の進展など他の地域と比較して厳しい社会経済情勢が長期にわたり継続しており、地域社会を担う人材の確保、地域経済の活性化、情報化、交通機能の確保及び向上、医療提供体制の確保、教育環境の整備、集落の維持及び活性化、農地、森林等の適正な管理などが喫緊の課題となっています。

一方で、過疎地域は、食料、水及びエネルギーの安定的な供給、自然災害の発生の防止、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、多様な文化の継承、良好な景観の形成などの多面にわたる機能を有し、これらが発揮されることにより、国民の生活に豊かさと潤いを与え、国土の多様性を支えています。

こうした中で、過疎地域の課題の解決に資する動きを加速させ、これらの地域の自立に向けて、過疎地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源などを活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、全力を挙げて取組むことが極めて重要です。

本制度は、地域の持続的発展と風格の醸成を目指し、過疎地域において課題の解決に取り組み、創意工夫が図られている優良事例について表彰を行います。

都道府県からの推薦

表彰委員による書類審査

- 地域の持続的発展・活性化について、先駆的・モデル的取組といえるか？
- 地域資源を活用し、地域の魅力を一層高めるものであるか？
- 地域の自主的・主体的な取組であり、住民の積極的な参加・連携が図られているか？
- 相当期間活動が継続し、その効果が既に定着していると考えられるか？

表彰委員による現地調査

表彰委員会による
優良事例の決定

表彰式

日 時：令和4年10月20日（木）13時20分

場 所：市民会館シアーズホーム夢ホール

（全国過疎問題シンポジウム全体会会場）

熊本県熊本市中央区桜町1番3号

令和4年度表彰委員会委員（敬称略）



委員長 宮口 桐廸

早稲田大学
名誉教授



委員 指出 一正

株式会社ソトコト・プラネット
代表取締役
『ソトコト』編集長



委員 図司 直也

法政大学
現代福祉学部
福祉コミュニティ学科
教授



委員 田中 輝美

島根県立大学
地域政策学部
准教授
ローカルジャーナリスト



委員 平尾 由希

株式会社 FOODSNOW 代表取締役
フードコーディネーター

委員長講評

宮口 桐廸

この表彰制度も、今年度で33回目になります。この間かなり長く表彰委員を務めて参りましたが、毎年、候補団体を訪ねて素晴らしい活動に出会うことが、私にとっては本当に嬉しいひと時になっています。今年度も5人の委員が各地を訪ね、総務大臣賞4団体、過疎連盟会長賞4団体を選定させていただきました。

総務大臣賞に輝いた長野県根羽村は、全戸が森林組合員で林業の6次産業化を進めるとともに、移住コーディネーターが中心になって移住者の増加を実現し、過疎の奥地山村で人口増を実現しました。充実した住民の交流施設も設けられ、明るくて強いネットワークが形成されています。岐阜県飛騨市は、地元の困りごとの解決を、インターネットで募集して外部の人に手助けしてもらう「ヒダスケ」という制度を考案し、2年間で1000人が参加するという成果を上げています。旅費自弁で、地元の役に立ちたいという人が意外に多いということもすばらしい発見です。大分県国東市の「くにさき地域応援協議会寄ろう会」は、地域づくりを実践している12の団体が横につながり、WEBサイト「国東つながる暮らし」を立ち上げ、高齢者がスマホを使いこなしてサイトへの投稿率が上がるなど、新しいコミュニティの形成と評価できます。そして徳島県勝浦町のNPO法人井戸端塾は、ひな人形を全国から集めて飾る巨大なひな壇のひな祭りを30年以上継続し、これに恐竜化石を含む地層の発見で恐竜の里ウォークラリーの活動が加わり、さらに農園プロジェクトを始動するなど、多彩な活動に住民の底力を感じます。

過疎連盟会長賞に移ります。まず北海道積丹町の美國・

美しい海づくり協議会と余別・海HUGくみいちは、廃棄物であったウニの殻を肥料として再生し、ウニの餌となる昆布の養殖や藻場の育成に成功し、積丹ウニの安定供給に貢献とともにその技術を公開し、大きな評価を得ました。山梨県身延町の五条ヶ丘活性化推進協議会の活動は、アニメ「ゆるキャン△」の舞台となったことを地域活性化に活用しようと、看板やマップの制作、撮影場所の廃校舎でのキャンプの受け入れ、多くのイベントでの地域食材の活用など、チャンスを活かした新鮮な活動と言えます。広島県北広島町の100プロは、地域の子供を100人に増やすことを掲げて発足したグループですが、自由に楽しいプロジェクトを立ち上げて地域の魅力を高め、綏やかなネットワークで子育て世代の移住・定住を増やしつつあることに新しい空気を感じます。最後に徳島県海陽町のNPO法人あつたかいようは、イベントやセミナーなどの開催による賑わいづくり、高校生や子供たちの人材育成、お試し住宅などの移住者支援の3つを柱に、情報共有はアプリで無理なく行うなど、みんなが孤立しにくい体制づくりに成功しつつあります。

過疎地域は減少を嘆いていてもしょうがありません。まず今いる人たちがいい関係を築き、それに外部の人や移住者がいい形で絡み合って行けば、それこそが地域のパワーアップなのだと考えていただきたいと思います。人と人の新たなつながりこそパワーのもとです。本年度もそのような表彰団体に多く出会えたことを喜び、敬意を表しつつ講評とさせていただきます。

総務大臣賞

くにさき地域応援協議会 寄ろう会

地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト “国東つながる暮らし”（海・山・川・歴史・そして繋がる人々の暮らし）



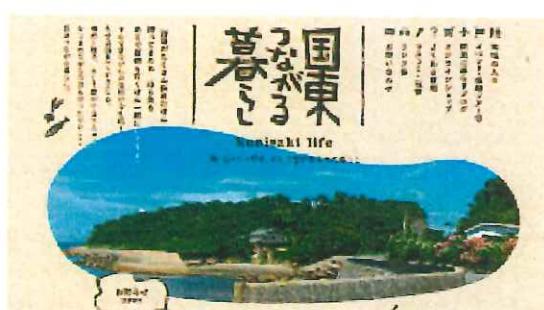
地域住民が自ら情報発信していくため、世代間交流を含めたスマホ教室を定期的に開催している。楽しみながら学べる環境を整備したことで、地域の活動に参画するきっかけにつながっている。

◆事例の概要

国東市では住民同士の支え合い活動（居場所づくりや生活支援）を基幹事業に、生活圏域毎で地域づくり支え合い活動を住民主体で進めており、平成30年3月より市内全域の情報共有を目的に本団体が設立された。

地域住民が主体となり、スマホ教室など情報発信を楽しみながら学べる環境づくりを創出し、スマホ教室がきっかけとなり、これまで地域づくりに消極的な地域も積極的に参画するよう変化してきている。また、『誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化』の実現に向けて、SNS インスタグラムを活用した地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト “国東つながる暮らし” を制作・公開している。

地域づくり支え合い活動の可視化によって、現在は、いつまでも誰もが安心して生活がおくれるよう、高齢・過疎化が進む中でスマホ取扱いデジタル対策に向けて貢物支援や移動支援、通院支援、防災などで SNS 等を含めた情報の一括管理が行えるシステムづくりについても検討をしており、多方面での効果が期待される取組を行っている。



共通 WEB サイト “国東つながる暮らし” トップページ

取組の詳細は、下記をご参照ください。

WEB サイト :



紹介映像 :



◆評価のポイント

大分県国東市の「くにさき地域応援協議会寄ろう会」は平成28年から平成29年の準備期間を経て、平成30年に本格的にスタートした団体である。「よろうえ」は国東市の方言で「あつまろう」の意味。その主な目的は、国東市で地域づくりを実践している12の団体が集まり、国東市全域で地域づくりを応援していくというのだ。また、「くにさき地域応援協議会寄ろう会」の進行とともに、令和2年にはこれまで地域おこし協力隊であった人々や、積極的に地域づくりを支援していた人々による「地域支援サポーター」が制度として登場し、若い世代が混じり、各地域の活動の展開と横のつながりを広げていく効果がもたらされるようになった。

地域づくり支え合い活動共通WEBサイト「国東つながる暮らし」は、このような立体的な関係性のなかからニーズが見つけられ、2021年4月に誕生したローカルメディアである。大きな狙いとしては「情報共有と情報発信」「モチベーションの維持」「自主財源の確保」「移住促進」等が挙げられるが、現地を訪れて、特に要点である「高齢者にインターネット、スマートフォンに親しんでもらう」が非常に効果を表していると感じた。

竹田津地区公民館で行われていた「スマホ教室」では、男女20名程の地域の高齢者の方がスマートフォンを片手に熱心に操作を学び、また、互いに教え合っている姿が印象的だった。「孫とラインができるのが楽しみ」「娘に教えてもらうのがよいコミュニケーション」「画像や映像で畠や田んぼの現在の様子を共有できて便利」などといった意見と成果が聞け、高齢者の地域の日常にSNSやデジタルが自然に溶け込んでいた。特にインスタグラムの利用率と投稿率の頻度にはすばらしいものがある。日々、それぞれの地域のいまを、穏やかに伝えてくれ、すべて地元の高齢者の方を中心とした、土地を愛するメッセージにあふれている。これ以上の良質で本質的な発信はなかなかない。国が進めているデジタル田園都市国家構想のひとつのお手本と言ってもいいだろう。「誰もが地域で幸せに暮らせる」という、先のウェルビーイングまで見据えられているローカルデザインだと思う。

「国東つながる暮らし」は各種イベントによる関係人口の拡大やECサイトでの地域経済の向上の仕組みも実装され、今後のウイズコロナの状況もよく勘案されている。国東のそれぞれの地域の自主性と自律性がメディアから立ち起り、より協創的なコミュニティへと発展していくこの伸びやかさに、今後も期待している。



寄ろう会では、各団体の代表が集まり、情報共有・課題等を協議している。



共通WEBサイト「国東つながる暮らし」ポスター



支え合い活動（居場所づくりから誕生した生活支援）



DATA 大分県 国東市（くにさきし）

団体名▶くにさき地域応援協議会寄ろう会

所在地▶〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川 149 番地

連絡先▶TEL : 0978-72-5189 (国東市高齢者支援課)

FAX : 0978-72-5171

E-mail : koureisen@city.kunisaki.lg.jp

URL : <https://yoroue.com/>

【交通のご案内】

自動車▶大分空港道路（終点：安岐交点）から約20分

鉄道▶JR杵築駅から車で約40分。または杵築駅バスターミナルより大分交通「国東」行きに乗車し約1時間。

飛行機▶大分空港から約15分

●国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年
国東市	58,786	40,504	35,425	32,002	28,647	26,232

(単位：人)

●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
国東市	-55.4	-35.2	-26.0	-18.0	-8.4

(単位：%)

●高齢者・若年者比率 (R2年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
国東市	43.1%	9.5%

国東「寄ろう会」大臣賞

支え合い活動団体の情報 サイトで共有



総務大臣賞の受賞報告をした野田委員長（左から2人目）ら＝国東市役所

創意工夫で地域活性化

【国東】国東市で支え合い活動をしている団体でつくる「くにさき地域応援協議会 寄ろう会」（野田敏広委員長）が、創意工夫で過疎地域の活性化に取り組んだとして本年度の総務大臣賞を受賞した。新型コロナウイルス禍でコミュニケーションが取りにくく、運営するウェブサイトを生かした団体間の情報共有などが評価された。関係者が10月31日、三河明史市長に報告した。

寄ろう会は2018年、買い物支援や食事会といった支え合い活動をする市内の各団体が情報共有や相互

買い物支援や食事会といった支え合い活動をする市内の各団体が情報共有や相互

集まる機会が制限される中、会はサイトの活用を促進した。各団体のスタッフが駆けつけ、会の活動内容を積み、それを活動の様子などをアップできるように、

コロナ禍で外出や対面での後方支援を目的に設立した。サイト「国東つながる暮らし」は「大輪」（市内国見町熊毛地区）のスタッフ武井啓介さん（59）が立ち上げ、会の活動に役立ててきた。

高齢者が気軽に写真などをアップできるように、スマートフォン教室も開催。今年4月にはサイト内に各団体の商品を販売するオンラインショップを開き、売り上げを運営財源に充てようとしている。

賞は総務省と全国過疎地域連盟が主催。最高の総務大臣賞は本年度、寄ろう会を含めて全国4団体が選ばれた。県内からの受賞は07年度の日田市以来。

市役所を訪れた野田委員長（73）らに対し、三河市長は「すごいこと。地域の人たちも喜んでいるでしょう」と述べた。

野田委員長は「コロナ禍で集まることが難しくなり、情報共有の場が必要だった。取り組みが評価され、うれしい」と話した。

（広瀬悠一）



サイトに掲載されたスマートフォン教室の様子